

日立国際奨学財団

●2015年奨学生選考にむけ、大学訪問を実施

日立国際奨学財団では、東南アジアの大学教員を対象に、自然科学分野における日本の大学院博士課程研究支援をする「奨学プログラム」、ポストドクの短期研究支援を行う「リサーチ・フェローシップ」、日本に関連する文科系分野の短期研究支援を行う駒井フェローシップを実施しています。応募は、毎年6月に開始し、10月末に締め切っています。毎年多くの応募がありますが、12月から1月末にかけて、東南アジア6カ国、15の大学を回り、応募者との面接に加え、大学当局との打合せ、財団設立から387名にのぼる卒業生の皆さんとの懇談会を行っています。



タイ・チュラロンコン大学にて学長と卒業生とともに

大学当局との打ち合わせでは、大学の人材育成についての考え方をよく伺い、財団のプログラムが大学のニーズにマッチしているかを確認し、また卒業生との懇談を通じ、その後の仕事を聞くなどして、日立国際奨学財団(HSF)ファミリーとしての人的ネットワークの深化を推し進めています。



タイ・コンケン市内でコンケン大学学長、副学長、卒業生とともに

日立国際奨学財団では、留学中に培った経験と交流の絆は、各プログラムの完了の後帰国をもって

終了するわけではなく、日本における就学が長期的な協力と協調をめざし、着実かつ多様なネットワークを築く第一歩と考えています。

今年度は、12月にタイ、フィリピン、ベトナムの8大学、1月にはシンガポール、インドネシア、マレーシアの7大学を回りました。各大学で、応募者との面接を通じて感じるのは、各応募者が非常によく勉強をし、また熱心に研究に挑んでいるのですが、さらに自らの力を高めるために日本の大学で勉強あるいは研究を熱望している、その意欲が大変高いことです。一方、学長をはじめ管理部門の方々にお話を聞くと、当財団の提案するプログラムは奨学金のレベルもさることながら、人的サポートなど金銭面以外のサポートが行き届いていることで他のどの奨学制度よりも優れているとの評価をいただいています。日立国際奨学財団は今年で31年目を迎えました。現地大学や卒業生の声を聞きながら常に新しいニーズにも応えていけるよう、これからも努力してまいります。



フィリピン大学ロスバニョス校長室にて学長、副学長、卒業生と



インドネシア大学にて学長と卒業生とともに

イベント情報

倉田記念日立科学技術財団 第47回 倉田奨励金贈呈式開催のお知らせ

自然科学分野の研究者に対して助成する「倉田奨励金」の贈呈式を、以下のとおり開催します。

日時：2015年3月2日(月)

贈呈式 11:00~12:00

記念パーティー 12:00~13:00

会場：経団連会館(千代田区大手町1-3-2)

当日は今年度の受領者53名をはじめ、日本を代表する研究者が一堂に会します。

参加ご希望の方は、財団事務局までご連絡ください。案内状をお送りいたします。

日立国際奨学財団 奨学生卒業式典のお知らせ

2014年度卒業式を下記にて開催します。奨学生の指導教授、在日大使館など多くの方々をお招きしております。

日時：2015年3月11日(水)

18:00~20:00

会場：東京ガーデンパレス(千代田区文京区)

編集後記

本誌でお知らせしたように、小平記念日立教育振興財団の日立家庭教育研究所(戸塚区)と日立家庭教育センター(日立市)が2015年3月31日をもって閉鎖します。研究所の修了生は37年間で4,609組、センターの修了生は41年間で5,425組となりました。この間、多くの方々に利用していただきましたが、時とともに、ニーズも変化してきました。この歴史に幕をとじるのは非常に悲しいことですが、これからも子育て支援を重視し社会に貢献してまいりたいと思います。次号の24号は4月1日に発行予定です。

本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までお寄せください。お待ちしております。

- 公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- 公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- 公益財団法人 日立環境財団
- 公益財団法人 日立国際奨学財団
- 公益財団法人 日立みらい財団
- 日立ファウンデーション(米国)

- ✉ odairakinen@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ kurata@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ kankyo@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ scholarship@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ mirai@hdq.hitachi.co.jp
- ✉ shakai.koken.qm@hitachi.com

- TEL 03-5221-6675
- TEL 03-5221-6678
- TEL 03-5221-6677
- TEL 03-5221-6679
- TEL 03-5221-6675
- TEL 03-4235-5801

*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部・社会貢献部まで。

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階

FAX 03-5221-6680

財団ホームページ ▶▶▶

www.hitachi-zaidan.org



発行日:2015年2月20日発行
発行責任者:神山 和也
編集責任者:寺村 奈津季
印刷:(株)日立ドキュメントソリューションズ

ZAIDAN NEWS LETTER

FEB/2015 VOL.23

HITACHI Inspire the Next

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション(米国)

ZAIDAN Report

日立みらい財団

●第1回「犯罪と非行」誌創刊45周年記念シンポジウム

2014年11月29日(土)『地域における子どもの安全』と題し、家族や学校だけでなく地域の方々と連携し、いかにしたら子どもの安全を確実に守ることができるか多角的に考える機会としました。

シンポジウムの内容は、3月中旬に発行予定の「犯罪と非行」179号と日立みらい財団のホームページに掲載いたします。

基調講演



片山 右京氏

片山右京さんは登山家であり元F1ドライバー。現在はプロロードレースチーム「Team UKYO」を率いたり、「チャレンジングスクール」の校長を務めるなど、沢山の肩書きをお持ちです。体験された多くのお話をうかがいました。子ども時代のこと、F1ドライバーになるきっかけや、登山についてや、ボランティア活動など数々の体験談をうかがいました。

最後に氏は「子どもたちもプライドを持っているのだから大人が好きなお話を一所懸命やって、失敗して傷ついているところを見せた方が子どもは安心できますよ」などのメッセージを熱く残されました。



左から、宮田様・小林様・舟生様・片山様・葛岡理事長・守山様

シンポジウム

現代社会における子どもの保護



守山 正氏

海外の「子どもの保護」と日本の実情を比較。虐待に対する国の意識の違いなどを解説。

早稲田大学大学院博士課程、早稲田大学、慶應義塾大学講師などを経て、現職。その間、拓殖大学教授。ブリテン・カウンシル派遣研究員(ケンブリッジ大学犯罪研究所、また国連ローマ犯罪司法研究所(UNICRI)に客員研究員として留学。その後、イギリス犯罪研究所に就任。国内ではJSTプロジェクト「子どもの安全」に参加。著書に「イギリス犯罪学研究」「ビギナーズ刑事政策」など。

子どもの「自分を守る力」を育むために

国内の子どもの被害事例をもとに地域と子ども自身の対策「自分を守る力」を育むことについて解説。



宮田 美恵子氏

日本女子大学総合研究所市民安全学センター研究員、日本女子大学人間社会学部客員准教授を経て、日本子どもの安全教育総合研究所(特定非営利活動法人)理事長。現在は、順天堂大学医学部協力研究員および研究所理事長、放送大学非常勤講師ほか、NHKテレビ「視点・論点」「週刊ニュース深読み」、NHKテレビ「エデュカチオ!」「あさイチ」ほか出演。

子どもを非行に走らせない～地域参加活動の重要性



小林 寿一氏

全国調査の分析結果をもとに、地域の環境美化活動などに参加して人と協働する経験をもつことが青少年の非行防止に寄与することを解説。

東京大学文学部卒業後、2012年より科学警察研究所犯罪行動科学部付主任研究員。2000年に米国アリゾナ大学より博士号を取得。日本犯罪心理学会常任理事、日本犯罪学会理事などを歴任。

インターネットから子どもを守る

ネットを安全に利用していくために、正しい情報を得て親子で学ぶこと、そして家族のルールを決めることの大切さについて解説。

セコム株式会社 IS研究所 主務研究員/「子どもの安全ブログ」モデレーター/キッズデザイン協議会理事。子どもを狙う犯罪が多発する社会状況の中で、各方面に対して積極的にセキュリティコンサルティングを実施。各種防犯セミナーの講師や書籍の監修などを行い、自らも2児の父として、子どもを守るための調査・研究、啓発活動に日々取り組んでいる。



舟生 岳夫氏